

社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム
IT技術を中心とした社会人・ニート・フリーター向け再チャレンジプログラム

平成19年度
委託業務成果報告書

大分工業高等専門学校
「社会人の学び直し」委員会

目 次

は じ め に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
---------------------------------	---

IT技術を中心とした社会人・ニート・フリーター向け再チャレンジプログラム 事業の全体概要・・・・・・・・・・・・・・・・	2
---	---

平成19年度事業の取組状況・・・・・・・・	7
-----------------------	---

1．事業実施にかかる調査活動・・・・・・・・	7
------------------------	---

2．アンケートによる調査・・・・・・・・	19
----------------------	----

3．技術職員の資格取得・・・・・・・・	23
---------------------	----

4．講座実施に伴う学内の施設整備・・・・・・・・	24
--------------------------	----

5．平成20年度開講に向けた取組・・・・・・・・	24
--------------------------	----

事業の評価・・・・・・・・	31
---------------	----

資料

- ・社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラムニーズ調査報告書
- ・「就職支援講座開設のためのニーズ調査」アンケート用紙
- ・「若年人材ニーズ調査」アンケート用紙
- ・Microsoft Word 講座募集チラシ

は じ め に

本校では平成１５年に「大分高専テクノフォーラム」(以下、テクノフォーラム)を発足している。現在、テクノフォーラムには本校のほとんどの教職員と４１社の県内企業が加入しており、技術講演会などを通して交流を深めている。これらテクノフォーラム総会や理事会等から、卒業生向けの技術教育ができないかとの意見が出ていた。平成１８年度には、県内企業からの要望を請け本校独自のプログラム「大分高専技術講習会：基礎から学ぶ３次元ＣＡＤ<Solid Works>初級講座」を行い、好評を得た。そこで、本事業は、以上のように実績のあるテクノフォーラムを基盤とし、新たに県内の行政機関との協力を加えた産官学一体の体制を構築して実施するものである。

本校のテーマ「ＩＴ技術を中心とした社会人・ニート・フリーター向け再チャレンジプログラム」を実施するにあたっては、「受講対象者を特に限定せず、再就職を求める社会人（主婦、ニート、フリーター等を含む）へ仕事上必要となる基本的な技能を与える」ことを目的としているので、３次元ＣＡＤだけに限定することなく、４つの学修プログラム（ワープロソフト、表計算ソフト、２次元ＣＡＤ、３次元ＣＡＤ）を実施することとした。

そのため、平成１９年度は翌年からの事業実施に備えた準備期間とし、学内の施設整備の充実を進めると共に、再就職を求める社会人、特にニート、フリーター等に関するアンケート調査を、「おおいたサポステ」や地域のＮＰＯ法人の協力を得て実施した。また、就職先となる大分県内の企業には、どのような人材や技術を必要としているか等について、ニーズや要望に関するアンケート調査を実施した。

一方、学修プログラムの講師を務めることとなる本校の技術職員は、ＣＡＤ利用技術者試験、３次元ＣＡＤ技術認定試験、Microsoft Office Specialist 等の資格を取得することに努めてきた。

さらには、再就職を求める社会人（主婦、ニート、フリーター等を含む）は、社会的に何かと不安を抱えている場合が多いので、それらに対応できるように、カウンセラーによる本校教職員のための講習会を開催した。また、各学修プログラムの実施にあたっては受講者がさまざまな相談ができるようにキャリアコンサルタントを配置した。

平成２０年２月からは、地域の新聞や求人誌に本校の「学び直し」講座の広告を掲載するとともに、第１回目の「Word」講座の受講者の募集を開始し、４月からの開講に備えた。

なお、本事業の評価のために、学外の有識者（行政、企業、ＮＰＯ法人等から８名）と本校教職員による評価会議を年２回開催し、忌憚のない意見を伺うこととしたが、これは本校の特色でもある。

最後になりましたが、今回アンケート調査を実施するにあたり、各方面の多くの方々にご協力をいただきました。ここに感謝申し上げます。

平成２０年５月１３日

大分工業高等専門学校
社会人の学び直し実行委員会委員長
地域連携交流センター副センター長
工 藤 康 紀

IT技術を中心とした社会人・ニート・フリーター向け再チャレンジプログラム事業の全体概要

本プログラムは、再就職を求める社会人（主婦，ニート，フリーター等を含む）に対し基本的なIT技術を習得させることで，地元企業への再就職を支援するものである。最近の求人はワープロ等のコンピュータに関する基礎技術を求める場合が多く，技術の無い人の就職が困難になっている。また，就労意欲の無いニートと呼ばれる状態から立ち直ろうとする人にとっても，就職は非常に困難である。本プログラムは，ワープロソフト，表計算ソフト，2次元CAD，3次元CADから成る4つの学修プログラムを実施することにより，コンピュータへの苦手意識を払拭し，企業にとって即戦力と成り得る人材を育成するものである。本プログラムの特徴として，特にニート・フリーターからの脱却を図る人たちの不安を軽減するため，カウンセラーを常時配置する点が挙げられる。更に，県の行政機関やNPO団体と連携し，ニート・フリーター問題に取り組む。また，再就職先である県内企業を対象としたアンケート調査を行い，企業の理解と協力を要請する。本プログラムは企画・運営を行う第一実行委員会と実務・教育を担当する第二実行委員会により進行し，半年に一度の外部有識者による評価により，地域にとって有益なプログラムとして機能するように確認・修正が行われる。平成19年度はプログラム実施の準備段階として，未就職者へのニーズ調査，企業アンケート，他大学・高専の調査，企業・行政とのコンタクト，環境整備などを行った。

1．事業期間

平成19年度～平成21年度（3年間）

2．事業の趣旨

本プログラムは，受講対象者を特に限定せず，再就職を求める社会人（主婦，ニート，フリーター等を含む）に工作上基本的な技能を与える。

3．事業の内容等

再就職を求める社会人に大分県内の地場中小企業へ再就職できるチャンスを与え，再チャレンジを可能にするために，4つの学修プログラム（ワープロソフト，表計算ソフト，2次元CAD，3次元CAD）を実施してIT技術を習得させ，本校独自の学修成果履修証明を発行する。

4．活動内容等

（1）実施体制の確立のため，行政機関・地場企業・NPO団体等への協力依頼，学修プログラムの開発，カウンセラー委嘱，教室の整備を行う。技術講習を担当する技術職員および教員は，講習に必要な資格を取得し，更にカウンセラーによるニート・フリーターに関する研修に参加する。

（2）市場調査を行う。未就職者の意識調査は調査機関に依頼し，大分県内地場企業の本事業へ

のニーズ調査はアンケートを郵送，回収することで行う。また，一般市民を対象にした公開講座「基礎から学ぶ３次元ＣＡＤ」参加者に対しアンケートを行い，ＩＴ技術に関するニーズ調査を行う。

- (３) 広告活動として，本校ホームページおよび新聞等への広告掲載等を行い，本事業対象者である未就職者へのＰＲを十分に行う。

５．事業の実施体制

(１) 校内での学修プログラムの管理・運営

地域連携交流センターは，社会人（ニート，フリーター，主婦等を含む）の「学び直し」のニーズに対応した学修プログラムの開発および実施を本校技術職員組織である「技術センター」に依頼する。一方，ニート・フリーターの特殊性に鑑みて，カウンセラーを常時配置して職業に対する意識付けや受講者の就職などに対する不安を軽減し学習への意欲を喚起することで，本事業の円滑な遂行を促す。技術講習を担当した技術職員および教員はプログラム受講者の成績・結果を地域連携交流センターに報告し，地域連携交流センター運営委員会の審議を経て大分高専が受講者に学修成果履修証明を発行する。

(２) 企業との連絡

地域連携交流センターは，プログラム受講者の雇用先と期待される主な県内企業から，仕事上必要と思われる知識・技術等を調査し，学修プログラムへの反映を促す。また，プログラム受講者の企業見学や求める人材を具体的に説明する就職セミナー講演等を企業に依頼する。学修成果履修証明が雇用時の資料として活用されるよう，履修認定した技術の内容について企業への説明を行う。

(３) 行政機関との連絡

地域連携交流センターは，大分県労使就職支援機構など行政機関への協力を依頼する。

現在，大分県では「大分県新青少年健全育成基本計画」の中で「青少年の自立対策」を掲げ，ニート・フリーター対策に積極的に取り組んでいる。大分市では「脱フリーアルバイター」を呼びかけている。大分県が設置した「ジョブカフェおおいた」では，既にＩＴ企業向けの「高度ＩＴ人材育成プログラム」を県内企業に開発委託し，成果を得ている。本校で開発する「学修プログラム」をこれらの行政機関に紹介し，学修成果履修証明の内容を把握してもらうことで，プログラム受講者が就職活動を円滑に進められるような体制を整える。さらに，県内のニート・フリーターに関する情報を共有し，解決に向け協力する。

(４) 学内組織体制の構築

本事業の実施に際し，「地域連携交流センター」のもとに学内の組織体制を次のとおり構築した。

- ・ 社会人の学び直し委員会（総括）
- ・ 社会人の学び直し第一実行委員会（企画・運営）

- ・ 社会人の学び直し第二実行委員会（実務・教育）

さらに、本事業の全般的な進捗状況については、適宜教員会議で報告し意見を求めた。
各組織の設置目的・会議開催状況等は、次のとおりである。

・社会人の学び直し委員会の設置及び会議開催状況

目的・業務内容：第一実行委員会及び第二実行委員会業務全般の進捗を把握，審議し
本事業の推進を総括する。

委員：委員長（大城校長），副委員長（福永地域連携交流センター長）外 15 名により
構成し地域連携交流センター，各学科，技術センター及び事務職員数名から選
出した。

会議開催状況：

回	開 催 日	議 題 等
1	平成 19 年 9 月 10 日（月）	1．当面のスケジュール ・委員会について ・評価会議について 2．その他
2	平成 19 年 10 月 5 日（金）	1．進捗状況等について ・第一実行委員会報告 ・第二実行委員会報告 ・評価会議について 2．その他
3	平成 19 年 11 月 9 日（金）	1．進捗状況等について ・第一実行委員会報告 ・第二実行委員会報告 2．その他
4	平成 19 年 12 月 12 日（水）	1．進捗状況等について ・第一実行委員会報告 ・第二実行委員会報告 2．その他
5	平成 20 年 1 月 21 日（月）	1．進捗状況等について ・第一実行委員会報告 ・第二実行委員会報告 2．その他

・社会人の学び直し第一実行委員会の設置及び会議開催状況

目的・業務内容：行政機関・地場企業・NPO 団体等への協力依頼，カウンセラー委
嘱，本事業へのニーズ調査及び広報活動等本事業の学修プログラム
を円滑に遂行するための管理・運営を行う。

委員：委員長（工藤地域連携交流センター副センター長）外 8 名により構成し，各学
科・技術センターから選出した。

会議開催状況：

回	開 催 日	議 題 等
1	平成 19 年 9 月 27 日（木）	1．今後の委員会の持ち方・予定等について 2．アンケートの実施方法等について 3．その他
2	平成 19 年 10 月 10 日（水）	1．アンケート項目について 2．その他
3	平成 19 年 10 月 16 日（水）	1．NPO 法人の訪問結果報告について 2．アンケート項目のまとめについて 3．その他

回	開 催 日	議 題 等
4	平成19年10月26日(金)	1. NPO法人の訪問結果報告について 2. アンケート項目(企業向け)のまとめについて 3. その他
5	平成19年11月1日(木)	1. 企業向けアンケート項目の確認について 2. 旅費使用の件について 3. その他
6	平成19年11月12日(月)	1. 未就業者・ニート・フリーター向けアンケートの決定について 2. NPO法人の訪問調査報告について 3. その他
7	平成19年11月22日(木)	1. 未就業者・ニート・フリーター向けアンケートの確認について 2. 企業向けアンケートについて 3. その他
8	平成19年12月5日(水)	1. 企業向けアンケートについて 2. 学修プログラム計画について 3. その他
9	平成19年12月19日(水)	1. アンケート実施方法について 2. 予算執行状況について 3. 評価会議の結果報告 4. その他
10	平成20年1月16日(水)	1. 案内チラシ, 募集チラシについて 2. 新聞掲載記事原稿について 3. 他校の訪問計画について 4. 学び直しホームページについて 5. 来年度の申請について 6. その他
11	平成20年1月25日(金)	1. 実施計画書について 2. 委託契約予定額算定調書について 3. その他
12	平成20年2月27日(水)	1. 平成20年度実施計画書について 2. 平成19年度実施報告書について 3. 「ニート・ひきこもり」に関する講習会について 4. 「Word 講習会」について 5. 評価会議について 6. その他
13	平成20年3月7日(金)	1. 「Microsoft Word 講座」について 2. アンケートの集計結果について 3. その他
14	平成20年3月19日(水)	1. 評価会議について 2. その他

・社会人の学び直し第二実行委員会の設置及び会議開催状況

目的・業務内容：本事業に係る学修プログラムの開発・実施，教室の整備及び本プログラムの講習の担当並びに受講者に関する成績及び履修証明に関する業務を実施する。

委員：委員長（藤本技術センター計測・情報グループ長）外9名により構成し，技術センターから選出した。

会議開催状況：

回	開 催 日	議 題 等
1	平成20年1月31日（木）	1．学修講座の担当講師について 2．その他
2	平成20年2月8日（金）	1．「Word 講習会」について 2．講習会実施期日について 3．その他

6．平成19年度の事業計画

平成19年度は次年度から実施する学修プログラムの準備として、実施体制の確立、市場調査、広告活動の3点を実施する。

実施体制の確立のため、行政機関・地場企業・NPO団体等への協力依頼、学修プログラムの開発、カウンセラー委嘱および事務補佐員の雇用、教室の整備を行う。技術講習を担当する技術職員および教員は、講習に必要な資格を取得し、更にカウンセラーによるニート・フリーターに関する研修に参加する。

未就職者の意識調査は調査機関に依頼し、大分県内地場企業の本事業へのニーズ調査は本校卒業生にアンケートを郵送、回収することで市場調査を行う。

また、一般市民を対象にした公開講座「基礎から学ぶ3次元CAD」参加者に対しアンケートを行い、IT技術に関するニーズ調査を行う。

広告活動として、本校ホームページおよび大分合同新聞への広告掲載等を行い、本事業対象者である未就職者へのPRを十分に行う。

具体的な事業の計画は次のとおり。

- 1) 行政、地場企業、NPO団体への協力依頼
- 2) 学修プログラムの開発
- 3) カウンセラーの委嘱および事務補佐員の雇用
- 4) 未就職者の現状・意識調査(再委託)
- 5) 地場企業に対するニーズ調査(アンケート郵送)
- 6) 公開講座「基礎から学ぶ3次元CAD」の実施およびニーズ調査
- 7) ホームページによるPR
- 8) 技術職員の資格取得(CAD利用技術者試験2級)
- 9) 技術職員の資格取得(3次元CAD利用技術者試験)
- 10) 技術職員の資格取得(Microsoft Office Specialist)
- 11) 技術職員の資格取得(Solid Works 技術認定試験)
- 12) 教室・パソコン等、設備整備
- 13) 新聞広告によるPR
- 14) 公開講座「基礎から学ぶ3次元CAD」の実施およびニーズ調査
- 15) カウンセラーによる教職員へのニート等に関する研修
- 16) 19年度事業評価

平成 19 年度事業の取組状況

平成 19 年度は、主に、平成 20 年度から開始する学修プログラムを実施するためのさまざまな調査活動や施設の整備を図るとともにその P R に努めた。その主なものは、以下のとおりである。

- ・ ニート、フリーター等に関する調査を「おおいたサポステ」や大分市内の N P O 法人を中心に実施
- ・ 本校と同じような「学び直し」講座を実施している他高専・大学等の視察
- ・ 再就職を求める社会人の意識や意向に関するアンケート調査の実施
- ・ 県内の企業に対して人材ニーズのためのアンケート調査の実施
- ・ 「学修プログラム」を実施する本校講師の資格取得
- ・ 「学修プログラム」を実施するための学内の施設整備の充実
- ・ ニート、フリーター等に関する講習会の実施とカウンセラーの委嘱
- ・ 第 1 回学修プログラム「WORD 講座」開講のための P R と受講者の募集
- ・ 本事業を評価するための学外有識者を含めた評価会議の実施

1 . 事業実施にかかる調査活動

再就職を求める社会人に向けて、より効果的な学修プログラムの開発やニート・フリーターに対する不安を軽減させ学習意欲を喚起させる実施環境の構築を目的として、行政機関・N P O 法人への訪問調査を行った。また、社会人学び直しに関する文部科学省の委託事業を採択された他高専・大学等の視察を行い、本校での事業実施の上で参考にした。

(1) N P O 法人等への訪問調査

これまでに訪問した主な N P O 法人等は次の 6 ヶ所である。

- ・ おおいた地域若者サポートステーション（略称：おおいたサポステ）、N P O 法人アスパル、N P O 法人若者自立支援の会ステップ、N P O 法人フリースペースばずる、N P O 法人心の支援センター、N P O 大分教育支援協会。

このうち、おおいたサポステは、ボランティア団体の活動拠点「大分 N P O プラザ」内に相談窓口があり、専門家が対応している。その他、N P O 法人では、不登校の子ども達やニートの居場所を提供したり、障害を持つ子ども達の放課後デイサービスを提供したりしている。

また、ニート・ひきこもりと言われる人の場合には、本人が来られずに保護者が来る場合もあるとのこと。これらの訪問からわかったことは、フリーターは別として、ニート・ひきこもりと言われる人達が高専に来て講座を受講するということは、まず不可能ということであった。そのため、このような人のためには、将来的に学外での講座を検討することが必要となった。

今回実施したアンケートでは、これら 6 ヶ所のうち、現在来談者のいない大分教育支援協会を除いた 5 ヶ所に協力をお願いした。

以下に訪問調査の報告書を掲載する。

独立行政法人雇用・能力開発機構福岡センター 訪問調査

訪問日時： 平成19年12月10日 10:00～12:00

訪問者： 高橋健一，中道つかさ

対応者： I氏（調査役 相談部門長）

場所： 独立行政法人雇用・能力開発機構福岡センター

学び直し講座における情報を得る為に、博多区の能力開発機構福岡センターを訪問した。

能力開発機構では求職者支援の方法として2つの講座を開設している。

訓練コース IT・パソコン関連や各種事務関連

就職に必要な知識・技能を、各種学校・専修学校等に委託して受講料無料（教材費別）で実施。

さらに若年求職者向けのYコースを実施している。

アビリティーコース

求職者の再就職の為に新たな職業に必要な知識や技能を身に付ける職業訓練。

実施場所 飯塚職業能力開発促進センター

八幡職業能力開発促進センター

九州職業能力開発大学校

- ・ 求職者、在職者向けの講座は平日の昼間、夜間に行われている。受講者の要望としては土日もある。
- ・ 講座時間帯の要望は、求職者は昼間に、在職者は仕事終了後の夜間に、というようにはっきりと分かれている。
- ・ ニート専用の講座は無いので講座の時間帯や内容の要望は把握していない。
- ・ 職業訓練講座の内容としては受験資格が実務経験年数を問わない資格試験対応の講座が多い。
- ・ 職業訓練施設の大きな地域として熊本や北九州がある。

大分若者自立支援の会 ステップ 訪問調査

訪問日時： 平成19年11月2日 15:10～16:10

訪問者： 工藤康紀，軽部 周

対応者： 若菜 洋樹（ステップ副理事長）

場所： 大分若者自立支援の会 ほっとハウス

- ・ 鶴崎にあるステップを訪問。会員40家族、支援者（大学教授など）20名程度。佐伯に支部がある。サポステとも協力体制を作っている。ステップの事務所兼居場所のことを、「ほっとハウス」という。
- ・ ステップの前身は、「ひきこもりの親の会」であり、ひきこもり本人よりも、その家族の不安を無くす活動を進めている。これにより、家庭の雰囲気が良くなることでひきこもりが治るケースもある。会員以外に、月2回の対外向け相談を実施。
- ・ 植田の「ハートコムおおいた」内に「フリーダム」という組織があり、ニート・ひきこもり

の人はまずここに入ってからステップに来る。フリーダムでは、症状の軽い人の集まりが月1回ある。やる気のある人は府内学園に紹介している。

- ・ 若菜さんは不登校・ひきこもりの研究者。講演経験も多数。講演内容は、ひきこもりだった若菜さん自身の体験など。
- ・ 日本でのニートとは、統計上カテゴライズしづらい人の総称。団塊世代Jr, R25世代, 就職氷河期世代などと呼ばれる20代後半の人が多く。
- ・ ニートの中でも症状が軽く、社会復帰を望んでいる人のことを「求職型ニート」という。ニートの人は、社会のスピードについていけないが、職人気質で真面目な人が多い。従って、CADなどの専門技術の習得に向いていると思われる。短距離走よりも長距離走で力を出すタイプ。ニートの人はコミュニケーションが苦手なので、休み時間など「することが何も決まっていない時間」にストレスを感じる。ニートの人に向いているのは、「学生がしゃべらなくても良い授業」。
- ・ ニートの人は、目新しい環境が苦手である。来るだけで良い説明会や体験授業をすると良い。事前情報が何も無いところには行かない傾向があるので、授業風景を紹介した写真の多いリーフレットを配布して対象者に配ると、安心して来ることが多い。高専の紹介ビデオを作るのも良い。(ニートの人は、社会につながるための情報に飢えている。大分高専のPRなど、外部への情報量を増やす必要がある。)
- ・ リーフレットを作る場合、将来のイメージが具体的にわかるものにすること。「CADを学修して、念願の就職ができました！」などの卒業生の声が、写真と文章でわかりやすく入っていると好印象。「授業を受けると、将来こんなことができる」というイメージが具体的にあれば、大分高専の独自資格でも何ら問題ない。
- ・ 思春期(高校)以降の人は自我ができるので、一方的なおしつけは駄目。先生が、自分の挫折経験などを話すと親しみをもたれる。トラブルになりづらい行動を教える方針が良い。
- ・ アスペルガー症候群などの軽度発達障害者は年々増加しており、一般学生の中にも増えてくる。今回の学び直しの試みにより、そのような学生への対処のノウハウを蓄積することが大切。
- ・ 毎月会報を出しているので、その中に大分高専の学修講座のことを掲載することは可能である。

講演会出席報告書

日 時：平成19年10月24日(水) 10:10～

場 所：ソフィアホール(大分市東春日町 17-20 第2ソフィアプラザビル2F)

出席者：亀野辰三, 前 稔文

講演会について

青少年自立支援センター おおいた地域若者サポートステーションにおける開所記念講演が「青少年自立支援講演会」と題して行なわれた。その講演会に亀野と前が聴講。100名以上の人員を収容できるホールで行なわれ、用意された席はほぼ満席と盛況であった。

開会に先立って、ニートやひきこもりの若年者数は全国で64万人、大分においては4千人にまでのぼることから、そういった若年者に対してキャリアカウンセラーによるカウンセリングや

臨床心理学をもとにしたサポートなどを行ないながら支援していくものであった。

続いて、若菜洋樹氏（NPO法人 大分若者自立支援の会ステップ 副理事長）と中村廣光氏（別府大学短期大学部 教授）による基調講演が行なわれた。

基調講演について

若菜氏は、「不登校、ひきこもり、そして今…」という題目で、自身の体験談から得たことや、現在に至って思うことについて講演された。その講演の中で、前向きに考えること（無理はしない。出来る範囲のことはやる。）や、自身の内面から外側に向かっていった過程におけるタイミングやきっかけの重要性、また、不登校やひきこもりの人間への配慮について話された。

中村氏（臨床心理士）は、「ニート・ひきこもり青少年の自立支援のあり方について」という題目で講演された。講演の冒頭に、「ニート・ひきこもりの誤解」について説明し、正しい理解をするために必要な考え方を説かれた。また、自立支援を支える3つの立場を論じたうえで支援のプロセスについて話し、ニートひきこもりの自立支援のポイントを説明された。

講演と学び直し教育について

聴講して、講演内容と学び直し教育との関連する部分について以下に挙げる。

- ・ 若菜氏の講演から、自身の体験で通信制高校への編入の話があった。状況に応じては、人に会わずに学修できる環境の提供について検討する必要がある。
- ・ 中村氏の講演で、個々人のニーズと適正に応じられる多様なメニューと就労への連結が求められるとあり、今回のプロジェクトの授業でサプライできるものは決まっているので、受講者のニーズにマッチしているかを授業の前に確認する必要がある。
- ・ 就労斡旋において、就労経験者の前歴の分析が重要と話されており、その点についてはアンケートで整理する必要があると確認できた。

自立支援のポイントとして、連携による決め細やかな相談援助体制を形成することが重要とであり、サポートステーションなどの機関との連携を深める必要があると考えられる。また、当事者（とりわけ親などの保護者）も重要なポイントになると説明された。

NPO法人 心の支援センター 訪問調査

訪問日時： 平成19年10月17日

訪問者： 工藤康紀，清武博文

対応者： 心の支援センター副理事長H氏，他数名

場所：NPO法人 「心の支援センター」大分会場

大分市畑中 8-10 電話 097-534-7744

- ・ ここでは就業支援はしてない。
- ・ 宇佐会場は土曜日，大分会場は水曜日のみで 10:30～16:00，竹田会場は火曜日に実施。
- ・ カウンセリングを通じて、自分を見つめることにより心のケアをすることを目的として活動する。30人程度のカウンセラーがいて相談に応じる。カウンセラーの養成をしている。
- ・ ストレスや不安を抱えている人に対して、来談者中心の非指示的カウンセリング（カール・ロジャース提唱）を行う。
- ・ 就業支援ではなくて、その前の段階の「自分の評価が気になる人、自分を否定している人、

ダメと思い込んでいる人」に対して、カウンセリングを行っている。

- ・ 講演会・シンポジウム・ワークショップやカウンセラー養成講座を実施し、そこに来た人の相談を中心にしている。これらは、新聞やチラシで参加を呼びかけている。
- ・ カウンセラー養成講座を受けてカウンセラーの資格を身に付けた人もいる。
- ・ ほとんどが大人であり、社会人である。不登校生もいる。
- ・ T南高校では、20歳前後の人もいる。以前ニートであった人など。
- ・ 本校の事業計画書を説明、理解を求めた。事業内容には賛同を得たようで、今後、アンケートを取る際にも協力してくれるとのこと。

「フリースペースぱずる」訪問調査

訪問日時： 平成19年10月15日

訪問者： 工藤康紀，前 稔文

対応者： 「フリースペースぱずる」理事のK氏

場所： 「フリースペースぱずる」

大分県大分市旦の原ハイツ 880-96

グリーンコープ生協旦の原福祉センター（1・2F）

（HPから、利用料 ・入会金 ：1万円 ， ・月利用料：2万円）

- ・ 不登校の子ども達の居場所を提供、障害を持つ子ども達の放課後デイサービス提供、さらに、大人も参加可能。来た子ども達は、基本的に自由に活動している。インターネットをしている子どももいる。
- ・ 現在の登録者は、3名で、小学生1名、通信制高校生2名（16歳から18歳）。この3名は不登校者。その他にも、常時来ている人がいる。（主に、障害を持つ人）
- ・ ここに来れば何とかなるが、本人が来られずに親が来る場合が多い。
- ・ 本校の事業計画書を説明、理解を求めた。事業内容には賛同を得たようで、今後、アンケートを取る際にも協力してくれるとのこと。
- ・ アンケートを取るときの言葉はできるだけ軟らかい方が良いと言われた。（説明に使った書類は文科省に提出したものであったので、堅い言葉が多かった）
- ・ 講習参加者を募集するときは、一部に限定せずに柔軟に対応できるようにした方がよい。
- ・ 講習が無料であれば、参加したいというフリーターはいるだろう。ただ、そのような人にどうやって講習会の存在を知らせるかの工夫がいる。
- ・ インターネットに載せる場合は、検索者（ニート・フリーター等）が分かりやすいような「検索に掛かりやすいキーワード」を使うような工夫が必要。

大分県私学振興・青少年課 訪問調査

訪問日時： 平成19年10月3日

訪問者： 亀野辰三，工藤康紀，軽部周

対応者： 大分県私学振興・青少年課：M主幹，I課長補佐

場所： サポステおおいた

主幹に本校の事業内容を説明の後，下記のNPO法人等を紹介していただいた。

（府内学園教務主任 Z先生との面談結果）

府内学園は，昨年度，「再チャレンジ」（文部科学省）で採択を受け，2コースで実施。

1コースは，途中で落ちこぼれた生徒に，数学，英語，国語を分かりやすく教えて基礎力を身につけさせる内容。

2コースは，洋裁，お菓子等の実技を身につけさせて就職支援を行う内容。

昨年度は，合同新聞で募集をしたら，計17名が応募。

落伍者はなかった（途中1名は就職がきまりコースからはずれた）。

府内学園は場所が利便性の高いところにあるので，受講者も集まりやすいのではないかということでした。

教員は言葉使いに細心の注意を払った（ニート，フリーター等の言葉は使わないようにし，元気づけるように励ました）。

お菓子等は専門学校と提携して行った。

問題点は，人の（教員）やりくりが大変であった他は，特になかった。

（おおいたサポステ ～おおいた地域若者サポートステーション～）

株式会社 ベンチャーラボ T氏との面談結果

おおいたサポステ：（自立支援センターの中に窓口）

新規に訪れるのは，2日に1名程度，9月は12名が新規に登録。実際は，親が来ることが多く，本人は自宅に居るケースが多い。

ニートの人が講習会へ参加するとしても，高専などの学校は無理でしょう。ここのサポステや「アイネス」などならOKだろう。また，町の中心から少し離れたところの方が返って来やすい。人目に付きにくいところの方が良い。駅前等は不可。移動方法は，電車，バス，自転車，歩きなど。

（NPO法人 アスパル H氏との面談結果）

NPO法人「アスパル」：（大分市大手町）

現在の登録は，20数名（中学生3名，高校生4，5名，それ以上10数名）。

彼等にアンケートを実施することは可能です。

開設時間は，10：00～16：30。

その他に紹介いただいた主なNPO法人

- ・ 大分若者自立支援の会（大分市千歳に移転）

- ・ フリースペースばずる（旦野原）
- ・ 心の支援センター（宇佐市）
- ・ 大分教育支援協会（金池町） >>> 府内学園とは、少し異なる。ただし、スタッフはほとんど同じである。

（電話での問い合わせ結果）

府内学園で実施しているのは、（文部科学省の事業で）対象者がニートといわれる人。基本的に18歳以上。（18歳以下は対象外）また、府内学園に来ることができない人も対象外。

大分教育支援協会では、中卒以上を対象としている。引きこもりや学校に行けない人も対象としている。府内学園で対応できない場合は他のNPO法人への橋渡しをすることもある。

（2）他高専等事業の調査報告

平成19年度に始まった文部科学省の委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」には、本校以外にも11高専の他、100を超える大学短大等の事業が採択されている。本校の事業を実施する上で参考となりそうな事業をいくつか視察してきたので、それら事業の特徴を以下に記す。

1）長野高専... 事業の名称「地域ニーズに対応した工学・技術基礎教育支援プログラム」

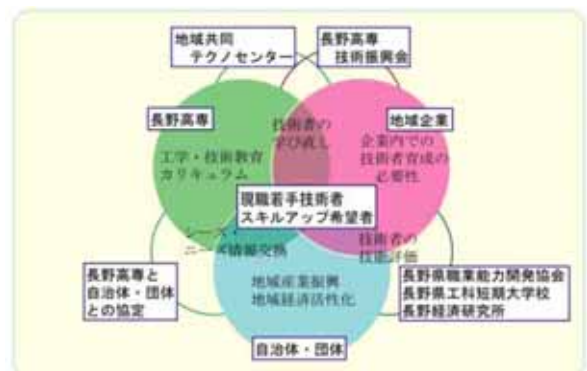
訪問日時： 平成20年2月13日 15：00～19：00

訪問者： 工藤康紀，藤本高德

対応者： 楡井雅巳氏（電子情報工学科教授），藤澤義範氏（電子情報工学科准教授），
中村天昭氏（コーディネーター），宮下伸正氏（コーディネーター）

場所： 独立行政法人 国立高等専門学校機構 長野工業高等専門学校

- ・ 15:00～17:30までは、「現代GPフォーラム 2008in 長野」の報告会に参加した。実は、この現代GPのテーマ「地域企業と連携した技術資格取得支援」が今回の学び直しのテーマ「地域ニーズに対応した工学・技術基礎教育支援プログラム」の出発の本になっているようだ。



- ・ 長野高専では、以前から塩尻市との包括協定の準備が進んでおり、今回の「学び直し」の募集がある以前から、地域の中小企業との「組み込みソフト」の講座開講の話は出ていた。また、信州大学で同様な講座が設立されることになっており、その準備としても長野高専の話が進んでいた。
- ・ 講師は、電子情報工学科の二人の先生が担当している。そのため、後期の時間割を作る段階から、講座を実施する曜日には授業を入れないように時間割を作った。
- ・ 二人のコーディネーターを雇っているが、彼等は長野高専の卒業生であり、会社を定年退職した人で、高専のことや企業のことに詳しい人である。県内を南北の二地域に分けて二人で担

当し、それぞれの地域の企業を回って要望を聞いたり、講座への参加を呼びかけたりしている。

- ・ 講座のテキストは、藤澤先生が中心になり自前のものを作っている。ただし、基礎となるソフトは、日立のルネサスから購入し、それを分かりやすく編集したり、例題を入れたりして初心者でも分かりやすいものとしている。著作権の問題は相談し、クリアしているとのこと。
- ・ この「学び直し」に実際に携わっている人間は数人であり、楡井先生が選任し校長から直接依頼してもらった。特に、環境都市工学科からは全くの素人の人を入れてもらった。この人は、講習用テキストが出来たときに、それを読んでもらって、テキストが分かりやすいものになっているかどうかをチェックする役目を果たしている。これにより、テキストは初心者でも分かりやすいものになった。1日分のテキストが100ページに及ぶこともある。
- ・ 講習修了時の修得度の判定には、模擬テストを実施している。(ただし、修了証には点数等の記入はしない。修了の事実だけを書く)修了証明書には、地域の長野県職業能力開発協会の協力を得て、長野高専校長名と開発協会長の連名で修了認定をしている。塩尻市との包括協定があったので、その辺りは、スムーズに進んだ。
- ・ 1万円の講座受講料を徴収しているが、受講者を派遣する企業にとっては、安いぐらいであり、3万円以下程度なら企業としても問題なく出せるようだとのこと。
- ・ 講座は平日に実施しているが、会社としてもその方が勤務の一部として考えることができ、土日に実施した場合の超勤手当の問題などを考えなくて済むのでありがたいとのこと。
- ・ 同じような講座を開講している地域の専門学校ではどのようなことを実施し、どの程度のことを実施しているかを知るために、学修講座の講師を担当する人が実際に専門学校の講習を受けてみて(参加費は学び直し予算から支出)、講師としてのノウハウを取得すると共に、講座のレベル確認等もすることができた。

2) 福井高専... 事業の名称「高専ものづくり塾 3D デザイン・設計講座 - 就職支援と企業人ブラッシュアップ - 」

訪問日時： 平成20年2月21日 13:00～15:30

訪問者： 軽部 周 高橋健一

対応者： 加藤 省三氏(電子情報工学科 教授)

辻子 裕二氏(環境都市工学科 准教授)

場所： 独立行政法人 国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校

福井県鯖江市下司町 <http://himawari.ip.fukui-nct.ac.jp/>

学び直し講座における情報を得る為に、福井県の福井高専を訪問した。

福井高専では学び直しプログラムとして3次元CADの講座を開設している。

講習会スケジュール

メイン講師 2名

外部講師が1回分(1ヶ月)を受け持ち、交代制、補助として福井高専の教職員が就く。



地域連携テクノセンターマルチメディア室(受講会場)

実施回数 年4回 (19年度のみ3回)

期 間 1ヶ月 週4回(月,火,木,金)

合計16回

時 刻 18:00から2時間

さらに講座終盤,終了後に自立講座として復習講座を週1回設けている。

福井高専で3次元CADの需要があるのは特産であるメガネフレームの金型設計の為。よって受講者も社会人が多い。また定年された方の再チャレンジもある。初回は定員に対して2倍の応募があり,先着で受講者を絞ったそうです。受講者の多くは社会人なので遅刻早退は多い。

メイン講師を2名交代でしているので,理解度が深まるとの事。講座自体のリピーターも出ている。

成績証明方法は校長名の修了証書で行う。厳密に定めてはいないが半分以上の出席があれば発行している。

講座内容としては外部講師を呼び,講師の既存の講座を学び直し講座として実施している。

外部講師にメイン講師を任せている理由は,負荷を減らす事,教職員も補助として教えながら勉強できる等を考慮している。

3) 明石高専... 事業の名称「結婚・出産後に社会復帰する女性のためのCAD技能習得プログラム」

訪問日時: 平成20年3月5日 10:00~12:00

訪問者: 亀野辰三

対応者: 檀 和秀氏 都市システム工学科教授
鍋島康之氏 都市システム工学科准教授
渡部守義氏 都市システム工学科助教
須田和昭氏 学生課長
河野氏 教育支援係長

場 所: 独立行政法人 国立高等専門学校機構 明石工業高等専門学校
兵庫県明石市魚住町西岡 679-3 (〒674-8501)

- (1) 応募の背景・動機
- (2) 運営体制・組織
- (3) 事業内容
- (4) その他

【応募の背景・動機】

- ・ 明石高専都市システム工学科では,平成17~18年度にかけて都市システム工学科のカリキュラムについて全卒業生対象にアンケート調査を実施し,その結果,在学中の科目では「CAD教育」が最も高い評価が得られた。→学科としてCAD教育に自信を得た。



都市システム工学科コンピュータ室(受講会場)

- ・ 本プログラムの中心的役割を果たした鍋島准教授の独自のネットワークで、大学・高専卒業生で、出産後に女性復帰したいと考えるかなりの層が存在することが分かっていた。
- ・ そこで、結婚・出産後に社会復帰したいと願う女性をターゲットにして、学科で教育ノウハウを有するCAD教育をすれば採択される可能性が大きいと判断した。

【運営体制・組織】

- ・ 明石高専では、全校的な応募ではなく、学科単独で応募する傾向があり、本プログラムも都市システム工学科単独で応募した。
- ・ したがって、運営組織は学校全体的なものではなく、都市システム工学科の上記対応者の3名のみで運営している。（応募にあたっては、学生課教育支援係がサポートした）

【事業内容】

- ・ 初心者コースと経験者コースの2コースを開設し、定員は各々5名である。
- ・ 応募者は、初心者コースに17名、経験者コースに12名あり、抽選で初心者コースは8名、経験者コースは、定員どおり5名とした。
- ・ 受講期間は、初心者コースは、平成19年10月20日（土）～平成20年3月8日（土）までの週1回、10：30～12：00までの計15回実施。
- ・ 経験者コースは、平成20年1月19日（土）～平成20年3月8日（土）まで週1回、13：00～14：30、14：40～16：10までの計8回実施。各々のコースとも3月15日（土）に修了証書授与を行う。
- ・ 講師は、初心者コースには同校OBの女性（建設コンサルタント勤務）があたり、経験者コースには、民間の専門学校の女性に委嘱した。その他、初心者コースには、教員が2名とTA（学生）2名がサポートしている。経験者コースには教員1名とTA（学生）2名がサポート。したがって、講座が始まると、教員はほとんどタッチせずに、外部講師とTAで運営している（教員の負担軽減のため）。
- ・ 公募は、神戸新聞の他に、ポスター、チラシを配布した。
- ・ 受講会場は、都市システム工学科2Fのコンピュータ室である。
- ・ 修了資格の認定が難しいので、同校では、受講者にCAD利用技術者2級試験を受検するように指導している。
- ・ 受講料は1万円を徴収している（無料にすると、途中脱落者が出る恐れがあるということから）。
- ・ 受講料の中から、USBメモリーを購入し、受講者に渡している。供用パソコンのため、外部の受講者はすべてUSBメモリーでデータ保存をさせている。
- ・ これまで実施してきて大きなトラブルはなかった。

【評価体制】

- ・ 評価体制は、特に外部の方を入れた委員会方式は採用していない。同校にあるテクノセンターで行うことにしている。大分高専のような外部の有識者を交えた評価会議を大変高く評価していただいた。

【その他】

- ・ 明石高専には、大分高専のような企画室はなく、外部資金への応募は、教育関係であれば「教育支援係」が、学生関係であれば「学生支援係」が担当している。「学び直し」は、「教

育”がついているから「教育支援係」で担当している。公開講座，出前授業等の担当も「教育支援係」である。

4) 神戸女子大学... 事業の名称「子育てに一段落した女性やペーパーティーチャーの家庭科 教員・臨時講師への道を拓く」

訪問日時： 平成20年2月20日 13:00～

訪問者： 清武博文，前 稔文

対応者： 中尾友則教授，亀治中吉男氏

場所： 神戸女子大学教育センター



報告内容

- ・ 再チャレンジ支援講座の見学：「パソコン(7)」
- ・ 神戸女子大における「学び直し」教育の運営体制および組織について
- ・ 事業の内容について
- 再チャレンジ支援講座
 - ・ 当日は，Excel の講座を実施しており，受講者33名，講師1名（男性）とサポートスタッフ1名（女性）の2名（情報技術学院という専門学校の教員）であった。
 - ・ 講座の概要は，「キャリアデザインの必要性」，「企業の求める求人像」，「自己分析」，「よい履歴書の書き方」，「女性の知っておきたい労務知識」，「ビジネスマナー」，「接遇訓練」，「パソコン」で，90分授業を32コマ，定員40名，受講料7,000円としている。7000円は教材用であり，出席を促すためにも取るほうが良いと判断したとのこと。「パソコン」は全15回を実施し，情報技術学院に講座内容および実施体制の全てを任せている。実施内容としては，ワード，エクセル，インターネットの利用・活用である。なお，講師料は時間給とし，パソコンは専門学校からの持ち込みとしている。
 - ・ 情報技術学院に全て任せてあるため，神戸女子大では，パソコンの講座に対しては何も関与していない。120万で請け負ってくれたとのことである。
 - ・ 情報技術学院は，ハローワークの3ヶ月無料講座を請け負っているとのこと。
 - ・ 「パソコン操作」以外の講座を設けている理由として，マナーや敬語の使い方等の接遇を加えており，社会に出て行くための心構えとして必要であると考えたためである。
- 運営体制・組織
 - ・ 運営に関する委員会を次の4つの機関と共に組織している（これまでに4回開催）。
 - 情報技術学院（前掲）
 - 男女共同参画センター（神戸市，西宮市）：女性が多く出入りしているところ
 - 生きがいしごとサポートセンター：NPOの仕事の立ち上げを支援している
 - 地域のキャリアアドバイザー
 - ・ 神戸女子大においては，キャリア教育を行なう部署があり，亀治中さん自身もキャリアアドバイザーの資格を取得している。また，社会人の教養講座をオープンカレッジと称して開講しており，キャリアサポートを目的としている。

- ・ こういった学生以外の社会人を対象とした講座の開講は、地域と連携する必要があり、ハローワークが協力的で最も良いという意見が得られた。

○事業内容

- ・ 神戸女子大では、子育ての終わった主婦を主たる対象者としており、企業が PC を導入し始めた頃（H10 年前後）に退職した 37～45 歳の女性を想定しているとのこと。したがって、土日や夜ではなく家族が居なくなる平日の昼間に開講日を設定している。
- ・ 広報として、HP はもちろんのこと、リビング誌の掲載や地下鉄でのポスター広告も行なった。特に効果的であったものは新聞広告であり、新聞社の協力も得られ 1 面に事業内容等を掲載してもらえた。
- ・ 募集 40 人に対して、応募者は約 130 名あり、選定基準として本来の趣旨である「再就職」ということを重要視したとのこと。40 名の内訳は、フリーター 8 名、母子家庭の母親 7 名、主婦 25 名であり、年代別の内訳としては、20 代 7 人、30 代 10 人、40 代 22 人、50 代 1 人である。
- ・ ニートやフリーターに関して、ニートの表現が否定的に聞こえるのでフリーターのみを対象とした。ニートは専門家でないと対処出来なく、悪くすれば状況を悪化させるので簡単にはできないと考える。
- ・ フリーター 8 人中の 1 人は、「この講座はきつい。自分でやる」と言い出している。一方で、過去にいじめ・不登校の経験を持ち 1 年遅れで高校卒業した 1 人が意欲的に取り組んでいる。
- ・ 前述の通り、神戸女子大にはキャリア教育関連の部署があり、基本的構想もあったため、これといった事前調査やアンケート等は実施していない。また、各組織との連携による運営であるため、平日開講としても何も支障はないとのこと。
- ・ 懸念していることとして、受講辞退や家族の病気・介護などで欠席・遅刻者の増加がある。そういった場合への対応が困難であり心配であるとのこと。なお、大学という視点から全体の 75%以上出席すれば修了証を発行する。技術やマナーの習得レベルに関しては、各機関の実績等から相応のレベルの内容を講義していると思われるので 75%以上の出席で修了でも問題ないだろうとのこと。ただし、修了証の効力として、周囲からの認知の確保は必要であると考ええる。その点については、神戸女子大におけるキャリア教育の実績もあり、ハローワークからの信頼もあるので、現在のところ問題はなさそうである。
- ・ 駅から徒歩で 10 分の場所にあり、写真のような立派な看板が門の傍に作ってあった。将来的には屋上にも看板を作りたいと言われていた。

他高専等事業の調査報告まとめ

学校名	事業の名称	対象者、人数	実施回数 時間数等	実施曜日 時 間 等	受講料	講 師 等	修了証明・修了 認定
大分高専	IT技術を中心とした社会人・ニート・フリーター向け再チャレンジプログラム	再就職を求める社会人（主婦，ニート，フリーター等を含む）10名	各講座2時間10回，計20時間	土曜日2時間，月4回	無料	内部講師（本校技術センター職員，一部外部講師も）	学修成果履修証明，本校独自の模擬試験を実施
長野高専	地域ニーズに対応した工学・技術基礎教育支援プログラム	主に企業から派遣されてくる人，10人	1日に午前午後各3時間，3ヶ月にわたり合計5日間，延べ30時間	平日（金曜日）に実施，1日午前午後で6時間	1万円	メイン講師1名，補助講師1名でいずれも長野高専の教員	修得度の判定に模擬テストを実施。ただし，修了証には修了の事実だけ記載。
福井高専	高専ものづくり塾 3D デザイン・設計講座 - 就職支援と企業人ブラッシュアップ -	社会人一般（定年後の再チャレンジの人もいる）	1回2時間，週4回×4週，計16回で修了。（以上を年間4回実施）	月，火，木，金 18:30～20:30	3千円	メイン講師は外部講師2名で月ごとに交替する補助講師は高専の教職員	校長名の修了証書，出席回数の半分以上で発行
明石高専	結婚・出産後に社会復帰する女性のためのCAD技能習得プログラム	初心者コースと経験者コースの2コースを開設し，定員は各々5名	初心者コース：土曜日の10:30～12:00に，6ヶ月間に合計15回	経験者コース：土曜日13:00～14:30と，14:40～16:10，3ヶ月間に合計8日間。	1万円	初心者コースには同校OBの外部講師（女性）1名，経験者コースには，外部講師の女性1名（教員が2名とTA（学生）2名がサポート）	修了資格の認定が難しいので，受講者にCAD利用技術者2級試験受験するように指導
神戸女子大学	子育てに一段落した女性やベビーチャーターの家庭科教員・臨時講師への道を拓く	子育ての終わった主婦を主に対象者とし，退職した37～45歳の再就職希望の女性を想定。40名。	90分を32コマ実施	平日の昼間	7千円	外部講師1名，外部補助者1名（女性）	全体の75%以上出席すれば修了証を発行

2. アンケートによる調査

アンケート調査は，大きく2つの柱で実施した。一つは，(1)就職支援講座開設のためのニーズ調査（求職者編）で，他の一つは，(2)若年人材ニーズ調査（企業編）である。

(1)の就職支援講座開設のためのニーズ調査は，就職を希望する人に仕事上必要となる基本的な技能の習得ができるよう，学校の特性を活かした無料の就職サポート講座を開設するにあたり，どのようなニーズがあるかを把握することを目的として実施するものである。調査対象者は，ハローワーク，ジョブカフェ，おおいたサポステ，雇用紹介事業者「ジョブシティ」および，就労支援を行っている「NPO法人アスパル」，「NPO法人若者自立支援の会ステップ」，「NPO法人フリースペースパズル」，「NPO法人心の支援センター」の協力を得て，現在正社員ではない人を抽出した。さらに，来街者への調査も実施した。調査方法は，対象者にアンケート調査票を渡して，記入してもらう方法を採用した。調査時期は，平成20年1月17日から平成20年2月18日である。回収数は250票である。

一方，(2)の若年人材ニーズ調査は，本事業を実施するにあたり，企業の求める人材像やニーズおよび採用条件等を把握することにより，より良い学修プログラムを確立するために実施するものである。調査対象者は，本校の卒業生が就職をしている県内企業を対象に無作為で250社を抽出した。調査方法は，郵送調査法を採用し，平成19年12月27日から平成20年1月28日までを調査期間とした。回収数は94票である。

(1) 就職支援講座開設のためのニーズ調査 (求職者編)

このアンケートは、ジョブカフェ (設置者は大分県で、運営は財団法人大分県総合雇用推進協会が実施) や民間のジョブシティ (雇用紹介事業者)、及び、サポステ、就労支援を行っている N P O 法人等の協力を得て実施した。他に、街頭で数十名に対し実施した。以上により、現在正社員ではない 2 5 0 名から回答を得た。

年齢や性別構成は次のとおり。19歳以下が3.2%、20～24歳が24.0%、25～29歳が15.2%、30～34歳が17.6%、35歳以上が37.2%、無回答が2.8%。このうち、男性31.2%、女性66.8%、無回答2.0%。

- 1) これまで経験した就労形態としては、「正社員として」が67.2%と最も高い。次いで、「アルバイトとして」(37.2%)、「パートとして」(21.6%)、「派遣社員として」(13.6%)、「期限付き雇用として」(10.4%)。
- 2) 現在、働いていない理由としては、「自分に合った仕事が見つからない」(28.8%)をトップに、「就きたい仕事に必要な技術・技能が身についていない」(14.0%)、「年齢制限がある」(12.8%)、「職場の人間関係に自信がない」(10.8%)、「仕事に就くのが不安」(10.4%)、「採用してくれる企業がない」(10.4%)、「給与・時給が安い」(10.0%)。
- 3) 今後の就労に対する考え方をみると、「すぐにも働きたい」が58.0%と半数を超えている。次いで「近い将来(1年以内程度)は働きたい」が20.0%、「時期はわからないが、働きたい」が13.6%となっている。「働くつもりはない」は2.8%しかなく、就労意識は高い。
- 4) 仕事に役立つ技術・技能として身に付けたいものとしては、「パソコン(例：ワード、エクセル、C A Dなどのソフトの活用に関すること)」(49.6%)が最も高く、次いで、「福祉・医療に関するもの(例：介護福祉士、医療事務等)」(34.0%)、「パソコン(例：情報処理、シスアドなどプログラミング、ハードに関すること)」(22.8%)、「財務・経理に関するもの(例：中小企業診断士、簿記等)」(19.6%)、「法律に関するもの(例：行政書士、社会保険労務士等)」。
- 5) パソコン講習会等の受講場所としては、「大分市中心部」が48.4%と最も高い。次いで、「JR駅から近い場所」が37.2%、「ハローワーク」が26.4%、「ジョブカフェ」が18.0%、「サポステ」が10.0%となっている。
- 6) 大分高専の社会人の学び直し講座で受講してみたいパソコン講座としては、「表計算ソフト」が32.8%、「ワープロ」が21.6%、「2次元C A D」が13.6%、「3次元C A D」が12.8%。表計算ソフトの需要が強いことが伺える。
- 7) 受けてみたい講座(本校の講座に限定せずに)としては、「表計算ソフト」の56.8%をトップに、「ホームページ作成」が45.3%、「ワープロ」が37.4%、「C A D」が30.0%、「データベース」が24.7%、「プログラミング」が20.5%。
- 8) 講師に対する要望としては、下記のようなことがあげられているので(一部抜粋)、今後実施するにあたり、一人ひとりに丁寧にわかりやすく教えていくことが必要と思われる。
 - ・ 初心者でも理解しやすいように。疑問にすぐ答えてもらえるように。 女性 25～29歳
 - ・ 誰にでもわかりやすい教え方をしたいです。 女性 35歳以上
 - ・ テキスト通り進めるのではなく、一人一人のペースで教えて欲しい。 女性 35歳以上

- ・ 学校や社会に不安を持っている人の気持ちがきちんと理解できる人。わかろうとしてくれる人。 女性 20～24 歳
- ・ 質問をしやすい雰囲気講師が良い。 男性 25～29 歳
- ・ 参加者の緊張をほぐすような雰囲気作り。 男性 30～34 歳

(2) 若年人材ニーズ調査(企業編)

本校の卒業生が就職している県内の主な企業 250 社にアンケートの協力をお願いし、94 社から有効な回答があった。そのうち、所在地をみると、「大分市」が 63.8%を占めている。業種別では、「製造業」が 29.8%で最も高く、次いで、「サービス業」(21.3%)、「建設業」(17.0%)の割合が高くなっている。資本金別では、「3 百万～1 千万円未満」が 2.1%、「1～5 千万円未満」が 34.0%、「5 千万～1 億円未満」が 9.6%、「1～3 億円未満」が 12.8%、「3 億円以上」が 27.7%。従業員数別では、「29 人以下」が 19.1%、「30～99 人」が 30.9%、「100～299 人」が 20.2%、「300 人以上」が 29.8%。

- 1) 不足している職種としては、「専門・技術職」が 68.1%と圧倒的に高くなっている。次いで、「技能工・労務職」が 21.3%、「営業・販売職」が 16.0%、「事務職」と「保守的職業」が各 10.6%。

業種別にみると、「専門・技術職」は建設業(81.3%)、サービス業(80.0%)で特に高くなっている

- 2) 不足している就業形態としては、「正社員」の割合が 64.9%と圧倒的に高くなっている。次いで、「契約社員・嘱託」が 11.7%、「人材派遣」が 4.3%。
- 3) 正社員を採用するときに重視する点としては、「熱意・意欲がある」が 78.7%と最も高い。次いで、「専門的知識・技能がある」が 67.0%、「行動力・実行力がある」(58.5%)、「理解力・判断力がある」(55.3%)、「協調性・バランス感覚がある」(55.3%)、「一般常識・教養がある」(53.2%)、「健康・体力がある」(53.2%)が 50%台で並んでいる。
- 4) 正社員の採用方針をみると、「新卒採用が中心」が 28.7%、「どちらかという新卒採用が中心」が 38.3%となっており、3 社に 2 社は新卒重視の採用方針である。「中途採用が中心」は 2.1%、「どちらかという中途採用が中心」が 25.5%、合計すると 3 割弱が中途採用を重視している。
- 5) 中途採用をする理由としては、「専門的知識を持った人材の確保」(56.4%)と「退職者、転職者の補充」(41.5%)の 2 つの割合が高くなっている。以下、「多様な人材の確保による組織の活性化」が 23.4%、「事業の拡大のため」が 17.0%、「新規学卒者の採用不足の補充」が 14.9%となっている。
- 6) 過去 5 年ぐらいの間に退職した若年社員の有無についてみると、「退職した若年社員がいる」が 76.6%である。「退職した若年社員はいない」が 19.1%、「若年社員がいらない」が 1.1%となっている。5 社のうち 1 社では、若い社員が退職している。
- 7) パソコンによるワープロソフトや表計算ソフトを使いこなせる社員についてみると、「十分いる」が 69.1%、「必要人数いる」が 24.5%、「やや不足している」が 3.2%、「非常に不足している」と回答した事業所はみられない。従業員数別にみると、規模が小さいほど使いこなせる社員のいる事業所の割合は低くなっている。

- 8) パソコンの取り扱いスキル(能力)を採用の条件にしているかをみると、「必須条件としている」が 31.9%、「あれば望ましい」が 38.3%、「特に条件としてはいない」が 26.6% となっており、多くの事業所がパソコンのスキルを一定の条件としている。業種別にみると、建設業でパソコンのスキルを条件とする割合が高くなっている。従業員数別にみると、300 人以上の規模が大きい事業所よりも、300 人未満の事業所でパソコンスキルを条件とする割合が高い。
- 9) パソコンのスキルを採用の条件としている 66 事業所について、パソコン取り扱いのレベルを尋ねたところ、「通常の入力ができればよい。ワープロ程度」が 54.5%、「特定のソフトが使えること」が 30.3%、「プログラミング、システム開発ネットワーク管理等が行えること」が 13.6%となっている。特定のソフトが使えることを条件としている事業所での具体的なソフトとしては、エクセル、ワード、パワーポイント、C A Dなどが多くあげられている。
- 10) 採用にあたって有利になるパソコンに関する各種資格については、資格の種類によって差がみられるものの、優先または考慮材料とする事業所の割合は、ほとんどの資格において 4~5 割程度となっており、資格があれば採用に有利に働くことはまちがいないものと思われる。
- 11) 社会人の学び直し講座に対する意見・要望として以下のようなことがあげられており、高専という教育機関の行う講座への期待の大きさがうかがえる。
- ・ ワープロ、表計算 C A D のスキルを身につければ、即、再就職でき即戦力になるかという、そうでもないのが現実だと思う。講座では各々のソフト利用のスキルアップばかりを目指すのではなく、応用能力や社会人としての意欲や協調性を培う工夫をしないと、就職先の間口が広がらないと思う。
 - ・ 教育推進プログラムは、非常に良い取り組みと思います。ニート、フリーターに基礎教育を行い、即戦力になると思われる。しかし、我が社においては、技術職や IT 以外の社員が不足しているのが実情である。
 - ・ 技術も必要であるが、コミュニケーション能力、ストレス体制等の要素も同じくらい重要と考える。
 - ・ 再就職ができる自信を持たせてあげてほしい。
 - ・ 当社は土木、建築の設計業務を行っている。そのため、専門分野の再教育、研究が行えれば非常にありがたい。中途採用者用再教育としても、現在ポリテクセンターで行っているような、失業保険を受給することが目的では人材は育たない。独自のネットワークを活かして欲しいと思う。
 - ・ H P 上でも公開されているのか？ 良いことだと思う。時間と講座内容があればいつか受講したいと思っている。
 - ・ 総合職社員に対して有効な取り組みと考えられる。
 - ・ IT 技術を習得するだけでは採用に結びつきにくいのではないか。社会人としての基本を学び直し身につけられるような講座であって欲しいと思う。

3 . 技術職員の資格取得

本学修プログラムの実施に当たり，技術職員が講師を担当することになっているため，自身のスキルアップの必要があり，また受講者への対応，講座の円滑な進行，講座終了時には，受講者のプログラム内容の習得状況を把握する必要がある。このため教授能力の向上が求められ，技術職員の資格取得は必須である。

(1) 講座別資格取得状況

平成 2 0 年 3 月 3 1 日現在の資格取得状況は，次のとおりである。

Word 7 名

Excel 7 名

2 D C A D 6 名

3 D C A D 0 名

- ・ 2 D C A D については，11月18日に6名が受験し，12月17日に全員合格の発表があった。
- ・ 3 D C A D については，12 月に 2 名が受験したが，合格者はいなかった。
- ・ Solid Works 技術者認定試験を，2月20日に1名受験したが，合格しなかった。
- ・ Word については，2月26日に1名，2月28日に6名が受験し，全員合格した。
- ・ Excel については，2月29日に4名，3月14日に1名，24日に1名，28日に1名が受験し，全員合格した。



(2) 講習会 (勉強会) 実施状況

勉強会はそれぞれの試験が終わったものについては，現在は中断しているが Word，Excel については現在も行っている。特に Word の勉強会については，最初の講座となるためまだ受験していない職員を対象に，講師となる職員の訓練も兼ねて，現在も継続中である。

3 月 3 日に，九州東芝エンジニアリング(株)ソリューション部からインストラクターとしての業務にあたっている織田智子 氏を招き講習会を開催した。



本事業の講師である技術職員とサポート学生に対して，セミナーを実施する上で次のようなノウハウを教授していただいた。

- (1) 全くの初心者想定したセミナーのデモンストレーション
- (2) 専門用語は徐々に使用する
- (3) アイコンタクトを取りながらコミュニケーションする

- (4) メイン講師がセミナーを統括する
- (5) 1回のセミナーは準備した7, 8割でよい

Word以外の講座についての勉強会は各講座の始まる一ヶ月前位から再開し、それぞれの講座に向けて、準備していくことにしている。

4．講座実施に伴う学内の施設整備

本講座は休日開講のため、学外者が利用しやすいように図書館のメディア閲覧室を開講教室として確保した。現有設備では対応できないため、ノートパソコン(19台)、デスクトップパソコン(1台)とプリンターを設置し、パソコンは無線LANに接続できるようにした。また、講座を円滑に進行できるように授業支援システムを導入した。

(1) 施設等整備状況

- 4月から開講するMicrosoft Word講座については、本校図書館1階「メディア閲覧室」を会場とする。図書館の改修工事に伴い途中から他会場とすることもある。
Microsoft Excel講座以降の会場については、今後検討する。
- 受講者の状況によっては、学外の施設を会場とすることを検討する。

(2) 設備等整備状況

- 受講者用としてノートパソコンを購入した。これによりパソコンが設置された会場でも講座が開講できる。
- 技術職員の資格取得及び講座に向けた勉強会等のためにノートパソコンを購入した。
- 講座に必要な関連ソフトウェア、関連書籍を購入した。
- 講座がスムーズに運営できるように講師のパソコン画像を受講者のパソコンに転送できる授業支援システム(ソフトウェア)を購入した。

5．平成20年度開講に向けた取組

平成20年度の開講に向けた取組みとして、講座の全体スケジュールの調整を行った。講座内容はMicrosoft Word, Microsoft Excel, 2次元CAD, 3次元CADであり、本事業の周知のために、本校ホームページに掲載するとともに、新聞や雑誌への広告掲載、NPO法人等への訪問などを行った。

また、4月開講のMicrosoft Word講座について、本校ホームページに載せるとともに、新聞、雑誌に広告を掲載し、NPO法人等に受講者募集チラシの配布を依頼すると共に、ニート・ひきこもりと言われる人々への理解を深めるために学内で講習会を実施した。

さらに、受講者からの相談への対応や、講師を務める本校職員へ講座実施に対するアドバイスをいただくために外部カウンセラーに就任を依頼した。

(1) 広報 (広告) 活動状況

- 事業の新聞紹介記事
 - ・ 「大分合同新聞」: 平成 19 年 8 月 8 日朝刊
 - ・ 「読売新聞」: 平成 19 年 9 月 1 日朝刊
- Microsoft Word 講座の募集チラシ配布及び広告掲載
 - ・ ジョブカフェや N P O 法人等の団体を訪問し募集チラシの配布を依頼
 - ・ 「西日本新聞」: 平成 20 年 2 月 8 日朝刊大分版に広告掲載
 - ・ 「週刊ゲットサポート (大分版)」: 平成 20 年 2 月 11 日号, 2 月 18 日号に広告掲載
 - ・ 「大分合同新聞」: 平成 20 年 2 月 13 日朝刊に広告及び紙面掲載
 - ・ 「週刊求人案内 (大分版)」: 平成 20 年 2 月 15 日号, 2 月 22 日号に広告掲載
 - ・ 「大分合同新聞」: 平成 20 年 2 月 25 日夕刊に紙面掲載



(2) カリキュラムの内容

事業紹介ポスター (B 1 サイズ)

Microsoft Word 講座では, 受講者が Microsoft Office Specialist 認定資格を取得できる程度の能力を習得するために次の日程表で講座を行う。

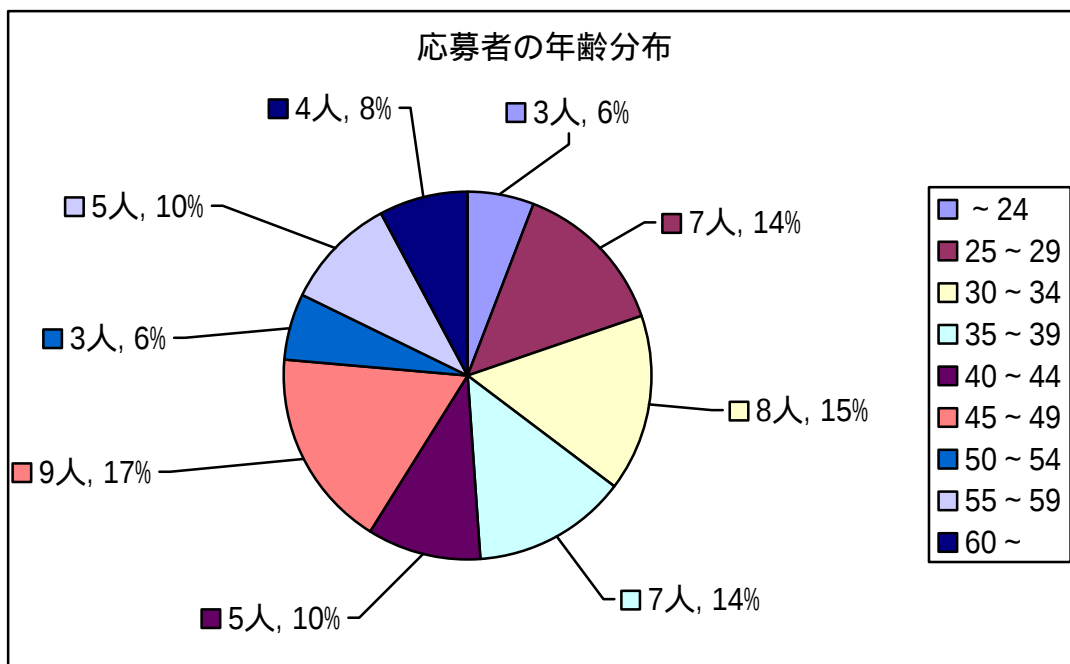
日程表

開講日	学修プログラムの内容
第 1 回 4 月 12 日	Windows の基本操作・文字入力・Word の基本操作 ファイルやフォルダのコピー, 日本語入力
第 2 回 4 月 19 日	コンテンツの作成 (1) 記号・特殊文字の入力, オートコレクト
第 3 回 4 月 26 日	コンテンツの作成 (2) 画像の挿入, 図表・グラフの作成
第 4 回 5 月 10 日	コンテンツの整理 表の挿入, 箇条書き・アウトラインの作成
第 5 回 5 月 17 日	コンテンツの書式設定 (1) 文字書式・段落書式の設定
第 6 回 5 月 24 日	コンテンツの書式設定 (2) 段組みの設定, ページ設定
第 7 回 5 月 31 日	グループ作業 校閲文書の回覧, コメントの挿入

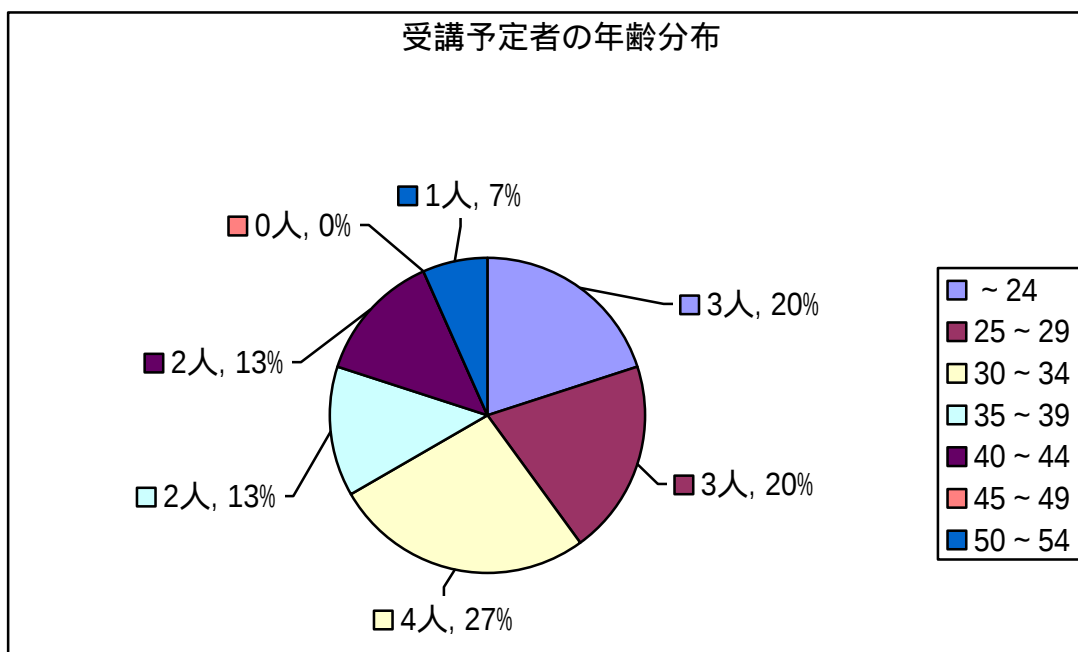
開講日	学修プログラムの内容
第 8 回 6 月 7 日	文書の書式設定と管理（１） テンプレートを使用した新規文書，文書の保存
第 9 回 6 月 14 日	文書の書式設定と管理（２） 封筒・ラベルの印刷，Web ページのプレビュー
第 10 回 6 月 21 日	模擬試験

（３）Microsoft Word 講座応募状況

- 受講申込者の状況 51名の応募があった。



- 受講予定者 平成20年3月4日（火）に51名の応募者の中から，応募動機等を判断して15名の受講予定者を決定した。



受講予定者アンケート結果【設問1～7】

No.	設 問	受講者番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	○の数			
1	パソコンを使ったことがある	Windows Me	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	Windows Me		
		Windows 2000	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	3	Windows 2000		
		Windows XP	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	○	○	○	-	9	Windows XP		
		Windows Vista	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	1	Windows Vista		
		その他()	98	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	／	その他()	
2	(使ったことがある人)どのような目的でパソコンを使いましたか(当てはまるもの全てに○)	わからない	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	2	わからない		
		使ったことがない																		0	使ったことがない
		文書作成	-	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	5	文書作成	
		表計算	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	1	表計算	
		デジタル画像の編集・印刷・保存	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	2	デジタル画像の編集・印刷・保存	
3	日本語入力ができる	ゲーム	○	-	-	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	5	ゲーム		
		インターネット	-	-	○	○	○	○	-	-	-	○	-	-	○	○	○	10	インターネット		
		メール	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	1	メール	
		その他()	-	-	-	-	-	-	数字入力	-	-	-	文字入力に関する操作の練習	-	-	-	-	-	／	その他()	
		ローマ字入力	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14	ローマ字入力	
4	日本語入力変換ソフトは何を使っているか	かな入力	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	1	かな入力		
		できない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	できない		
		MS-IME	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	3	MS-IME	
		ATOK	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	ATOK	
		その他()	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	／	その他()	
5	Microsoft Wordを使ったことがある	わからない	○	○	○	○	○	○	-	○	○	-	○	-	○	○	○	12	わからない		
		2000	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2000	
		2002	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	2002	
		2003	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	-	2	2003	
		2007	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2007	
6	自宅にパソコンがある	その他()	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	／	その他()		
		わからない	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	○	-	○	○	5	わからない		
		使ったことがない																		6	使ったことがない
		ある	○	-	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	11	ある	
		ない	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	4	ない	
7	自宅からインターネット利用ができる	できない	○	○	-	-	○	-	○	-	○	○	-	○	○	-	○	7	できない		
		できない	○	○	-	-	○	-	○	-	○	○	-	○	○	-	○	8	できない		

○ 少しできる

受講予定者アンケート結果【設問8】

設問	受講者番号	どれくらいWordが使えるようになりたいか
1		社会で通用できる位に上達したいです。宜しくお願い致します。
2		仕事で、使うときに、戸惑わず、スムーズに使えるようになりたいです。
3		身につけれる所まで、技術をつけたいです。業務として、役立てる位の操作ができる様になりたいです。
4		仕事で使えるようになりたいです。
5		基本操作程度かそれ以上。入力出来ると思いますので使用方法を習いたいです。
6		文書作成ができる様になりたいです。
7		表計算など未経験である為、できるようになりたいです。また再就職において一般事務を希望しておりますので通用するくらい頑張りたいです。
8		仕事で少しはお役に立てるくらい使えるようになりたいです。よろしくお願いします。
9		(設問8は空白)設問3の日本語入力の項目に「少し」との記入あり(背景色薄い緑)
10		基本操作をマスターできること。
11		仕事をする上で必要に応じて文書の作成、データ入力、編集、図形や表の挿入ができるようになりたいです。管理、事務的仕事で使えるように早くなりたいと思っています。
12		ブラインドタッチができるようになりたいです。書類や案内状、などが製作できるようになりたいです。
13		就職先でお役に立てるくらいは使える様になりたいです。
14		基本的な文書作成ができるようになりたいです。
15		文書作成し、表やグラフ、イラストを使って、わかりやすく表現できる様になりたいです。

(4) ニート・ひきこもりの理解と支援に関する講習会実施

目 的：各学修プログラム（Word，Excel，2次元C A D，3次元C A Dの各講座）を実施する上で，いわゆるニート・ひきこもりと言われる人々の考え方や感じ方を理解し，自立支援等を進めるために臨床心理士でもある同教授に講演をお願いした。同時に本校の学生指導にも役立ててもらうことも目的とした。



日 時：平成20年3月6日（木）13時30分～15時00分

講 師：別府大学短期大学部 臨床心理士 中村 廣光教授

演 題：「ニート・ひきこもりの理解と支援について」

参加者数：38名

実施場所：大分高専 専攻科棟4階 アカデミックホール

講演内容：

「社会的ひきこもり」については，いわゆるニートと呼ばれる人以外にも心理的疾患や精神疾患のような各種障害を持つ人もいる。フリーターとはまた，別である。ニート・ひきこもりに対しては，さまざまな誤解があり，彼らの正しい理解のためには個別的理解が重要である。本人，家族，社会のニーズを摺り合わせるような援助を構築することが必要である。

自立支援を支える基本方針としては，支援の背景によって3つの立場がある。すなわち，熟成支援論，治療支援論，就労自立支援論の3つ。支援のプロセスとしては，段階的・連続的な支援態勢を作ることが大切である。基礎条件の整備に始まり，動機付け段階，心理的抵抗払拭段階，就労トレーニング段階，就労チャレンジ段階と進み，最後のフォロー段階へと進む。

自立支援のシステムとしては，次のようなことが必要となる。相談機能，ソーシャルワーク機能，治療的支援・問題解決機能，職業訓練・就学支援機能，カウンセリング機能，社会的・人間性養成機能，就労斡旋機能，アフターケア機能。このなかで，高専ができることとしては職業訓練・就学支援機能がある。このときも個々人のニーズと適性に応じられる多様なメニューが必要となる。

「学び直し」支援のポイントとしては，次のようなことが挙げられる。募集するときは，「親へのメッセージ」を重視する。入り口は，特に「入りやすさ」のイメージを重視する。個別カウンセリング機能を一貫して付随させる。個別支援プログラムを重視する。IT技術修得を中心にするとしても，対人機能（社会性）の修得をプログラムに組み込むことが大事であり，「生き方講座」等の人生観の涵養も必要である。アフターケアができる関係づくりも重要である。

(5) カウンセラーの就任依頼

目的 Microsoft Word 講座及び Microsoft Excel 講座を実施する際に、受講者からの就労相談や講座講師を務める本校職員に対してのアドバイスをお願いするために就任を依頼した。

形態 4月の開講期間中は、開始から終了まで会場に待機していただき、受講者の状況、講師の受講者への対応についてのアドバイスをお願いする。また、講座終了後には、受講者の就労相談に対応する。

5月以降は、各回とも講座終

了前に来場していただき、受講者の就労相談に対応する。

カウンセラー Career Window 代表 小島 健一氏（キャリアカウンセラー）

大分高等学校ひまわりプログラム受講生の皆さんへ

キャリアカウンセラーを活用し、就職を目指しましょう

【例えばこんな悩みを抱えていませんか？】

- 「履歴書や職務経歴書の書き方がわからない・・・」
- 「面接の場で、何を答えていいかわからない・・・」
- 「自分の強みや能力が何なのかイマイチはっきりしない・・・」
- 「資格の勉強をしたいが、何をしたらいいかわからない・・・」

そんなときにお役に立つのがキャリアカウンセラーです！

小島 健一 (Kenichi KOJIMA)
昭和50年生まれ。大分県別府市出身。平成11年広島大学卒業後、私大職員として6年間勤務。現在、キャリアコンサルタント個人事務所キャリアウィンドウ代表。主な実績として、高等学校や大学でのキャリアガイダンス講師、大分大学キャリア開発部副委員長、おおいのサポステキャリアカウンセラーなど。厚生労働省指定キャリア・コンサルタント能力評価試験合格。CDA(キャリア・デベロップメント・アドバイザー)。
E-mail : kojima@careerwindow.biz
ホームページ : <http://careerwindow.biz/>

【その他】

- 卒業生さん主催のコーチング講座も、2008年2月に受講完了しました。
- 2008年2月20日より、オールアバウトのブログライターになりました。
- 毎週水曜日・木曜日は、大分大学のキャリア開発課の相談コーナーにいます。
- エグゼクティブプログラムという学生のメーリングリストのコーディネーターをしています。
- 単発で高校や大学での進路・進学講座、マナー指導をしています。
- ボランティアで、大分県立美術館史料館の史料整理サポーターをしています。
- 雑誌読者サイト「神楽ドットコム」のメールマガジン発行を担当しています。
- NPO法人九州キャリア・コンサルタント協会会員です。

(6) その他の講座開講予定

講座名	実施曜日	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
Excel	週1回 土曜日	12	2	6						
		19	9	13						
		26	23	20						
2次元 CAD	週1回 土曜日				4 11	1 8 15 22 29	6 13 20			
3次元 CAD	週1回 土曜日							10 17 24 31	7 14 28	7 14 21

開講時間：2時間×10回

開講時間帯：10時00分～12時00分

事業の評価

本事業に対する評価機関として、学内および学外の有識者により評価会議を設けた。評価会議委員は、地元企業、行政機関、NPO法人、本校学修プログラム担当教職員、本校地域連携交流センター運営委員で構成した。平成19年度は2回の評価会議を開き、各学修プログラムの評価に加え、行政・企業に対する本事業のニーズ調査結果、大分県内のニート・フリーターの現状調査結果、カウンセラーの意見などを資料として本プログラムの内容を確認・評価していただいた。

1. 評価会議設置の目的

本年度文部科学省に申請し採択された本校の社会人の学び直し対応教育推進プログラム「ITを中心とした社会人・ニート・フリーター向け再チャレンジプログラム」について、本事業実施に係る進捗状況、今後の計画等についての評価及び意見・助言等をいただくため、外部評価委員と本校委員による評価会議を開催し、本事業の発展を目指すことを目的とする。

2. 評価会議の構成員

(1) 外部評価委員

企業、行政、学識経験者 8名

(2) 本校委員

本校社会人の学び直し委員会委員、第一実行委員会委員、第二実行委員会委員
担当教職員 21名

外部評価委員

敬称略，50音順

委 員 名	所 属 ・ 役 職
青 木 一	大分工業高等専門学校同窓会会長 青木エンジニアリング
足 立 紀 男	NPO法人技術サポートネットワーク大分理事長
石 坂 達 也	九州東芝エンジニアリング株式会社取締役管理部長
川 邊 正 行	ヒューマン・ネットワーク・リサーチ代表
柴 北 俊 英	西日本電線株式会社 研究開発部長
棚 野 芳 郎	西日本電線株式会社総務部総務グループ長（第1回目のみ）
下 郡 恵美子	おおいた地域若者サポートステーション キャリアカウンセラー
城 向 文 明	大分市商工部商工労政課長
田 川 貞 治	大分県商工労働部雇用・人材育成課人材育成推進班副主幹

本校委員（平成19年度）

氏 名	所 属 ・ 役 職
大 城 桂 作	学び直し委員会委員長（校長）
福 永 圭 悟	学び直し委員会副委員長，第一実行委員会委員（地域連携交流センター長）
工 藤 康 紀	学び直し委員会委員，第一実行委員会委員（地域連携交流センター副センター長）

氏 名	所 属 ・ 役 職
藤 本 高 徳	学び直し委員会委員，第二実行委員会委員長(技術センター計測・情報グループ長)
亀 野 辰 三	学び直し委員会委員，第一実行委員会委員（地域連携交流センター副センター長）
軽 部 周	学び直し委員会委員，第一実行委員会委員（機械工学科 准教授）
清 武 博 文	学び直し委員会委員，第一実行委員会委員（電気電子工学科 准教授）
手 島 規 博	学び直し委員会委員，第一実行委員会委員（制御情報工学科 助手）
前 稔 文	学び直し委員会委員，第一実行委員会委員（都市システム工学科 助教）
前 田 正 満	学び直し委員会委員（事務部長）
池 田 慎 二	学び直し委員会委員（総務課長）
河 野 美 奈	学び直し委員会委員（学生課長）
那 賀 修 二	学び直し委員会委員(技術センター技術長)
佐 藤 栄	学び直し委員会委員，第二実行委員会委員（技術センター技術次長）
山 崎 勝 翁	学び直し委員会委員（技術センター設計・生産グループ長）
吉 岩 哲 也	学び直し委員会委員（技術センター解析・構造グループ長）
衛 藤 賢 一	学び直し委員会委員，第二実行委員会委員（技術センター計測・情報グループ）
高 石 伸 一	第二実行委員会委員（技術センター計測・情報グループ）
岩 本 光 弘	第二実行委員会委員（技術センター設計・生産グループ）
高 橋 健 一	第二実行委員会委員（技術センター設計・生産グループ）
副 島 増 雄	総務課課長補佐・総務課企画室長

事務担当：総務課企画室企画係

3．評価会議の任期

平成19年12月1日～平成22年3月31日

4．評価会議の議長

（外部評価委員の互選）

ヒューマン・ネットワーク・リサーチ代表 川 邊 正 行 氏

5．平成19年度第1回評価会議

開催日時 平成19年12月14日（金）15：00～17：00

議 題

（1）IT 技術を中心とした社会人・ニート・フリーター向け再チャレンジプログラム事業について（福永学び直し委員会副委員長説明）

（2）事業の進捗状況について

（工藤学び直し第一実行委員会委員長及び藤本第二実行委員会委員長説明）

（3）事業についての質疑応答

外部評価委員と次のような質疑応答を行った。

- ・ パソコンスキル限定の事業かという質問に対して，20年度の計画については，

無業者及び企業に対して実施するアンケート調査を踏まえて決定したいが、次年度は実態に応じて計画の見直しをし、改良をしていく計画であることを説明した。

- ・ 4つの事業以外にもヒューマンスキルに対してニーズが高いという指摘を受けた。ニート、フリーター対策としてカウンセラー



に依頼を計画しており、他の事業の必要があれば応募者の実態を踏まえて検討する旨を説明した。

- ・ 受講者のパソコンスキルのレベルにばらつきが予想される点はどう考えているのかと質問に対して、受講者のスキルはできるだけ限定せずに対応したいと考えており、ばらつきがある場合は、受講者同士の教え合いなど利点もあると想定している点、またこれまでにCADの講座を実施した経験から、受講者にはかなりのばらつきがあっても、10人の受講者に5～6名の指導者で丁寧に対応するので問題はないことを説明した。さらに、1年目の応募状況や反省点から2年目の計画をさらに見直す計画であることを説明した。
- ・ 実施場所は十分整っているかとの質問に対し、学校で開講予定の平成20年度に関しては図書館を準備しているが、フリーター・ニートに力を入れる予定の21年度は市街地に出向いての講座が必要とされれば、これから準備を整えていくと説明した。
- ・ このプログラムが開発実証された後はどうなるのかという質問に対し、本校のプログラムが評価されれば、モデルケースとして全国に普及されることも考えられることを説明した。
- ・ 主婦層には託児施設の用意が効果的との提案に、現状では考えていないが、応募者の強いニーズがあれば今後の課題として検討してみたいと説明した。
- ・ ワード・エクセルの講座はどこにでもあるが、高専で扱うなら何かに特化したほうが良いのではないかと指摘があり、今後の課題として検討し、個性的なプログラムを作り上げて行きたいとの説明後、まずは「学び直し」の基盤作りを中心に考え、その後、作ったプログラムを土台にしてそれぞれの地域の実態に合わせ独自に発展させていけるようなプログラム作りにしたいと説明した。

6. 平成19年度第2回評価会議

開催日時 平成20年3月31日(金) 14:30～16:30

議 題

- (1) 社会人の学び直し事業の全体概要について(福永学び直し委員会副委員長説明)
- (2) 平成19年度事業の取組状況について
(工藤学び直し第一実行委員会委員長及び藤本第二実行委員会委員長説明)

外部評価委員と次のような質疑
応答を行い、おおむね良好との評価
をいただいた。



- ・ 「ニート・ひきこもり」と「フリーター」では実態が違うが対策はどうするかという質問に対し、「フリーター」については問題無いと考えているが、「ニート・ひきこもり」の場合学校に来るとい
うことに対してさえ抵抗があるということが分かったので来やすい場所を学外に検討
中であることを説明した。
- ・ 評価委員より調査は素晴らしく、説明も分かりやすかったとの意見をいただいた。
また、アンケート調査の250名中何人がNPO法人での回答かとの質問があり、19
名であると回答した。別紙アンケート報告書7ページの雇用形態に契約社員が入って
いない点の指摘を受けた。
- ・ 講座受講者を決定する際、再就職希望者であるかはどういう選考基準で判断したか
との質問があり、応募動機から判断して選考した旨を回答した。
- ・ 講座受講者にどんな人がどんな割合でいるかということとはあまりこだわる必要はな
いと感じるという意見をいただいた。また、アドバイザーの存在は重要だと思うが、
どんなふうに講座で相談を実施するのかという質問があり、講座の後別途1時間ぐら
いを設定し、個別相談という形で受講者の就労相談を実施する旨を説明した。
- ・ 本事業のような講座に来る人は就職しようという意欲は高いと思うのでアドバイザ
ーによる就労相談は意義深いという意見をいただいた。
- ・ 学外で実施する場合どのような場所を考えているかとの質問があり、アイネスやサ
ポステなど検討中である旨回答した。
- ・ 受講者15名全員が卒業することを見込んでいるのかという質問があり、募集定員
が10名なのでそれを上回る人数が卒業できることを目標にしている旨を回答した。
また、中小企業への支援など地域連携事業としても関連づけて事業を実施してほし
い旨の発言があり、CAD講座からCAM講座へと事業を発展的に検討している旨を
回答した。
- ・ 受講者15名の男女比はどうなっているかとの質問があり、応募のとき性別につい
ては記入してもらっていないので名前から判断すると女性9名男性6名と思われる
と回答した。
- ・ 勤労意欲のある人は、3ヶ月もある長い講座には参加しないと思われる。というこ
とは、勤労意欲は低く、ただ講座を受けたい(習いたい)だけと考えられるので、講
座の実施については、その当たりを考慮に入れて実施した方が良いとの意見をいた
だいた。

(3) 平成20年度事業計画について(工藤学び直し第一実行委員会委員長説明)

外部評価委員と次のような質疑応答および意見交換が行われ、良好との評価をいただ

いた。

- ・ 大企業はAutoCADでよいが、中小企業向けにはJW-CADを検討してみてもという意見をいただいた。
- ・ どのような企業がどのようなソフトを使っているか調査できないかという意見をいただいた。
- ・ 中小企業ではWord・Excel・2次元CADをきちんと教えることが大切なのではないかという質問があり、Excelの希望が多いことがわかりExcel講座を増やすことを検討中であると回答した。また、本校卒業生を対象に調査した以前の結果では3次元CADの希望が多いことがわかり、地域でも3次元CADの希望が多いと考えられる旨説明した。
- ・ パワーポイントはあまり使わないので講座で扱うのは疑問であるという意見が出された。
- ・ パワーポイントのみではなくプレゼンテーションスキルと並行してコミュニケーション能力を養成するような講座は意義深いという意見が出た。
- ・ プレゼンテーションの総合的能力はとても重要であり単独ではなく総合力として行う意義があるという意見が出た。また、講座終了時にアンケートを実施した方が良いというアドバイスをいただいた。
- ・ 講座修了後の受講者の追跡調査はどれぐらいの期間するのかという質問が出され、キャリアコンサルタントの小島氏と相談しながら決めることとしたい旨を回答した。
- ・ 教え方についてはどのような準備するのかという質問が出され、学内で講習会を開いたり模擬講座を実施している旨を説明した。また、フリータイムでの受講者同士の教えあいや自宅学習も意義があるという意見をいただいた。